

令和8年2月25日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	新宿区立牛込仲之幼稚園
所在地	新宿区市谷仲之町4-33

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

幼稚園の教育目標の一つである“自分で考える子ども”を育成するためには、豊かな体験を積み重ねることが大切である。自然との触れ合いの中で、様々な探究を行うことが可能であり、幼児一人ひとりの学力の基礎につながると考えた。

2. 活動スケジュール

月1~2回 令和7年5月から令和8年2月まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○園庭で生き物と出会うための環境	・プランター ・飼育ケース ・虫取り網 ・虫メガネ ・虫が来るための植物 ・図鑑 ・タブレット ・腐葉土
○園庭にある植物を活用した染遊び	・すりこぎ ・布 ・たらい ・ハンガー
○専門家によるTシャツ染め	・Tシャツ ・たらい ・バケツ ・シート
○調べたり観察したりするためのもの	・図鑑 ・絵本 ・タブレット
○植物の成長を観察する	・プランター ・ジョーロ ・土 ・腐葉土 ・化成肥料 ・水耕栽培用ケース ・球根 ・種 ・図鑑

4. 探究活動の実績

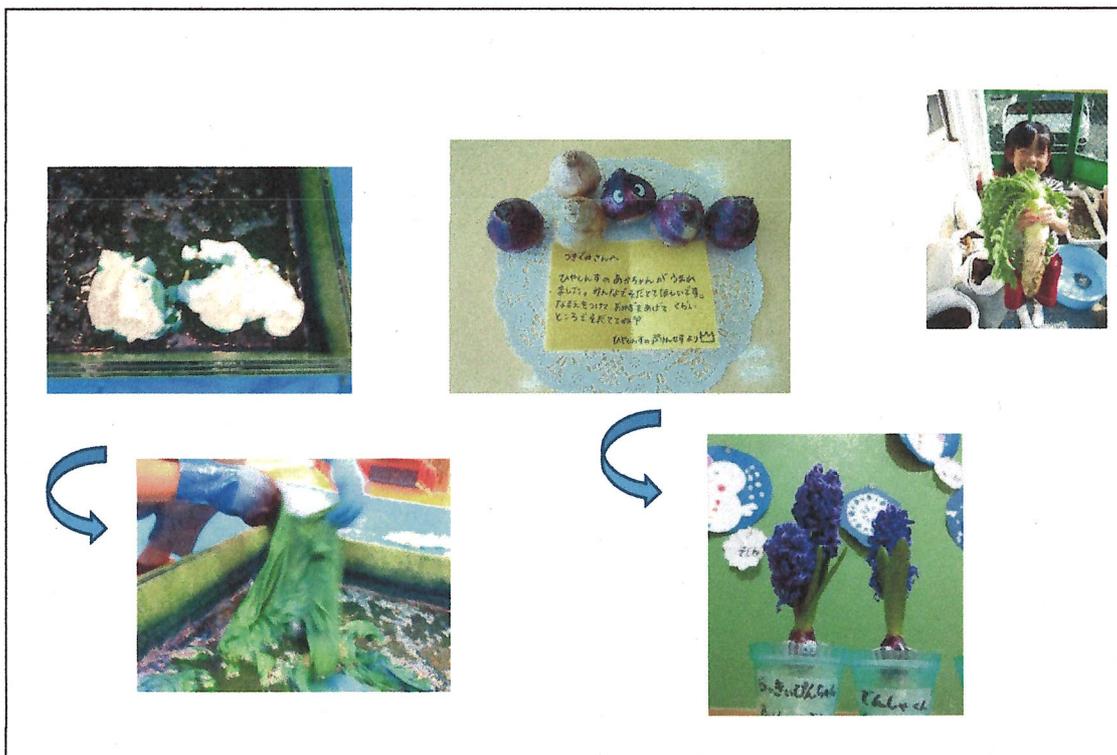
<活動の内容>

- 園庭に実った桑の実を集め、自分たちでつぶして、布を染めた。染めた時より、乾いた時の方が色が薄くなることに気付いた。
- 専門家の指導を受けながら、Tシャツを藍染し、様々な行事で着用した。
- 園庭に虫が来るようにするための植物をプランターに植え、毎日水やりをし、虫が来ていないか観察した。
- 大根の種をまき、毎日水やりをしながら成長を楽しみにした。あおむしがついてしまうので、毎日欠かさず虫を取っていた。収穫を楽しみにし、収穫した日は家庭に持ち帰り、保護者に料理をしてもらった。
- ヒヤシンスの水耕栽培を行った。はじめは黒い紙をかぶせるのはなぜか、どうなったらその紙を外すのか、どのような状態の時は窓辺がよいのか、どうなったら廊下がよいのか、友達のものとは比べたり試しながら場所の移動をし、最善の方法を考えていた。自分たちのヒヤシンスに名前を付け、毎日世話をしながら話しかけるなど、大切にしている姿が見られた。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- 桑の実をつぶすと色が出るのが分かり、色水遊びをしていたところに教師が布を出したところ染遊びに移行していった。染まると周りの友達や保育者にも知らせていた。
- Tシャツにビー玉などを入れて輪ゴムなどで止め、藍染めにしたところ、一人ひとり模様が違った。その不思議さに共感したり、出来た模様のすばらしさに共感したりした。
- 大根を収穫した際、友達の大根と自分の大根を比べて、大きさの違い、太さの違いに一喜一憂していた。また、二股に分かれた大根もでき、なぜそうなったのか不思議がっていた。
- ヒヤシンスのプリンセスから球根が届いた設定でヒヤシンスの水耕栽培を行った。それぞれ名前を付け親しみをもって世話をしていた。「芽が出たから日当たりの良いところに置いた方がいいと思う」と提案した教師に対して「ずっと廊下に置いた方がいいよ」という幼児の考えがあった。そこで保育者は窓辺に、幼児数人は廊下に置いて観察を続けた。すると、窓辺に置いたヒヤシンスの方が早く成長し蕾ができた。そこで、廊下に置いておいた幼児たちも窓辺に移すことにした。無事、すべてのヒヤシンスが咲き子どもたちも喜んでいた。

<活動の様子>



5. 振り返り

- 探究ということを意識して活動に取り組むようになったことで、今まで以上に幼児の言葉に耳を傾けたり気づきに気が付くようになったりした。
- 幼児の気づきに共感したり、保育者自身が自然環境に興味や関心をもつことが、幼児がより自然環境に目を向けることにつながることを、改めてわかった。
- 子どもの“やってみたい”という思いを実現するために、保育者も一緒に考え試したり工夫したりすることで、植物にとってどうすることがよいのか考えるようになった。

以上